これからの授業づくり

～ 新型コロナウイルス感染対策と連動した授業の工夫改善 ～

郡山市立小原田中学校

一斉授業が中心でも、次のような手立てを講じることで、生徒が集中力をきらすことなく意欲的に授業に取り組めるようにする。

① 意図的に思考する場面や作業する場面を設定する。
② 生徒の興味・関心を喚起する（心を揺さぶる）教材・資料を工夫する。
③ 習熟度別、コース別等の学習を取り入れ、クラスを分けて授業を行う。
（多目的室やの広いスペースでの授業の実施も可能）
④ ＢＧＭを流して作業や活動をさせる。（隣接クラスへの配慮は必要）など

ペア、グループ学習については、マスクの着用や通常より生徒の間隔を広くすること、こまめな換気（通気性を保つ）等の感染症対策を講じた上で実施する。

「対話的な学び」の捉え方

「対話的な学び」とは、「生徒同士の協議、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通して、自己の考えを広げ深めること」である。

対話的な学びとは、“学習の形態”のことではない。
（グループ・ペア学習等の話し合いの活動のみを指すものではない。）

- 先哲・作者との対話
- 自己内対話
- 過去や未来の自分との対話
- 各種ツールを活用した対話　など

これから実践できる「ツールを活用した対話的な学び」

① 付箋を使った対話

考えを付箋に書き、近くの生徒（班など）で回して読み合うことで、様々な考えを知ることができる。グループによる対話と同じ効果が期待できる。

② ハンドサイン、意志表示カード、名札マグネット等を使った対話

ハンドサインであれば、「わかった」→パー、「賛成」→チョキ、「反対」→グー、「つけたし」→人差し指を立てるなど、これを色分けしたカードにしてもよい。考え立場を示した黒板等に名札マグネットを貼付する方法もある。

グループにならなくても、声を出さなくても、自分の立場や意思を伝えることができる。

③ ＩＣＴ機器を使った対話

自分の考えをまとまたものをタブレット（カメラ機能）、実物投影機等でスクリーンに投影し、相手に伝えることができる。

④ ノートやワークシートによる対話

ノートやワークシート（例えば、自分の考えを書くスペースと友達の考えを書くスペースを分けるなど）を交換しながら、自分の考えとの比較検討ができる。

これからの授業で大切なこと

ペアやグループでの学習が設定しにくい状況の中、より求められるのは、「教師の説明する力」や「話す力」になる。

聞いている側に疑問や問いをもたせるような話し方、意図的な間の取り方、効果的な教材や資料の提示、筋道のわかる明確な説明など、教師自身の説明や話し方のスキルを磨く必要がある。